



富山の美術工芸

めぐりゆく 技と美

2025 年 2026 年
12 月 13 日(土) → 2 月 15 日(日)

開館時間 9 時 → 17 時
(ご入館は 16 時 30 分まで)

休館日 12/18, 12/28 → 1/4, 2/12

観覧料 大人 210 円(団体 170 円)
高校生以下無料

主催 富山市教育委員会(富山市佐藤記念美術館)

色絵鶏香炉 二代 横萩一光
明治～大正時代
富山市郷土博物館蔵



富山市佐藤記念美術館

〒930-0081 富山市本丸1-33(富山城址公園内)
TEL.(076) 432-9031 FAX.(076) 432-9080

富山の美術工芸

めぐりゆく技と美

2025

2026

12/13(土) → 2/15(日)

休館日 12/18, 12/28 → 1/4, 2/12



草子洗小町硯箱
江戸時代 草子洗小町硯箱
富山市郷土博物館蔵



小杉焼 緑釉大德利
江戸時代 小杉焼
富山市郷土博物館蔵



前田利保 能興三姿図(三幅の内「翁」) 江戸時代
木村立憲
富山市郷土博物館蔵

江戸時代の越中では、さまざまな美術工芸品が製作されました。ゆかりの絵師としては、狩野派に学び、優れた画技で富山藩の御用をつとめた木村立憲、京都に出て活躍し岸派を興した岸駒らがいます。工芸では、精緻な螺鈿技法により漆器を製作した仙田家や、武具を手がけた明珍家、金象嵌の三海家など、細工方で腕をふるった職人たちがいました。さらに、やきものでは、富山藩の保護を受けて興隆した、越中丸山焼、加賀藩の特権を得て流通した越中瀬戸焼、小杉焼などがみられます。しかし、この多くが明治維新以降、藩の後ろだてを失い衰退を余儀なくされるので

一方、新政府は近代化のために殖産興業政策をかげ、国内外の博覧会への出品物の製作、輸出を推進するようになります。一度は職を失った細工職人たちは、高度な技を用いて、海外向けの精巧な品々を手がけるようになります。また、絵師たちは西洋画技法を取り入れた新たな表現に挑むと共に、輸出品の図案なども手がけました。富山でも博覧会や共進会が開かれる様になりました。県産品を陳列し紹介する県立工芸品陳列場も開設します。さらに、技の継承や開発、人材育成のために富山県工芸学校も創設されるのです。

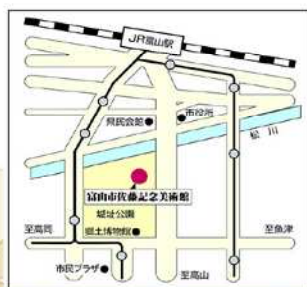
本展では富山の地で培われる技と美が、移り変わる時代の中でも絶えることなく、情熱ある人々の手により伝えられ、変容しながらも、強く、美しく、めぐりゆくさまを作品を通してご覧いただきたいと思っています。



打出し螺鈿香合 江戸～明治時代
明珍宗光 富山市郷土博物館蔵



越中焼 水指 明治時代



【交通案内】

- 富山駅から徒歩10分 ■市内電車「国際会議場前」下車 徒歩3分
 - 地鉄バス「城址公園前」下車 徒歩2分 ■富山空港より連絡バスで20分
 - 北陸自動車道 富山I.C.より車で15分
- ◎当館に駐車場はございません。最寄りの駐車場(有料)は城址公園地下駐車場です。

【学芸員による解説会】

12月20日(土)、12月27日(土)、1月12日(月・祝)、1月24日(土)、
2月7日(土)、2月14日(土)
いずれも13:30より 会場:当館展示室 ※事前申し込み不要、要観覧料

富山市佐藤記念美術館

〒930-0081 富山市本丸1-33(富山城址公園内)
TEL. (076) 432-9031 FAX. (076) 432-9080